

## 夢想神伝流（古流）

夢想神伝流は初伝を大森流、中伝を長谷川英信流を基に稽古練達する流派である。

### 立礼

入 場 ・ 臍前で鑢を両手で包み込むように持って柄頭を右乳付近に、コジリは左膝付近、刃を上向きにして刀が身幅より出ないようにして背筋を伸ばし恭しく立礼する。

### 坐礼

刀の置き方（取り方） ・ 鑢をを右膝の延長線上に峰側を手前にし前腕部（肘一手）の長さくらい前に一文字に置く。コジリは拳一握り手前に引く。その時右手掌を上にして人差し指と中指でツバを挟んで刀礼をする。（挟まない流派もある）

・ 右側体に刀を置くときは、柄頭と膝頭をそろえ、右腿部と鑢の間隔は拳一握り開けて刃を内側にして置く。（刃を外側に向けても間違いではない）

帯 刀 ・ 右手掌を上にして、人差し指と中指で鑢を挟み、左手で上からコジリ付近を持って刀を取り体中央部（臍前）から帯一枚を体側に残し左手でコジリ付近を持って帯刀する。

脱 刀 ・ 下げ緒を解く時左手はツバに親指をかけて、右手で解く。

・ 右前方に刀を立てることなく、峰を手前に柄頭を右前方、コジリは左側にする。置き方取りかたは前述に同じ。

## 初 伝 （大 森 流）

- I－4本目
- ・ 間合いが近いことを認識して行うこと。
  - ・ 横一文字長めに切りつけること。
  - ・ 肩を突くようにして受け流しに振りかぶること。（肩と耳の間でもよい）
  - ・ 右敵を切っ先で牽制しながら鑢を右耳近くに送り大きく血振りをする。
  - ・ 追い込んで足を先に出して斬る。（全剣連居合は同時）

- ・顔を先に敵に向け、敵を見据えての所作をする。(以下同じ)
- ・両膝を絞り上げる様に、回る方向に膝を寄せながら所作をする。(同上)

5 本目流刀 ・トン、トン、トンの拍子を覚える。

- 受け流し
- ・刀を担がない。
  - ・敵の腰車こしぐるまを鞘諸共斜きやに切る。

- 6 本目陰陽  
進退八重垣
- ・一刀目面から顎あごまで切る。(水月、臍まで切っても構わない)
  - ・真一文字に胴を切る。(腰車を切る)
  - ・振り被りは受け流して刀の下へ身体を沈める様に。

- 7 本目順刀  
介 錯
- ・切腹は武士の最高の荣誉であり厳粛に行う。
  - ・振り被りと同時に右足を出し、上段から遠目を切り、刀を引く。

- 8 本目逆刀  
追 い 風
- ・柄頭を低く構え上段から切りかかって来る敵に備える。(水平も可)
  - ・止めは左爪とど先前方付近つまきを突く。突いて刀を引いたとき右肘ひじを充分張る。

- 9 本目月影  
勢 中 刀
- ・振りかぶつて切りかかる敵の右手を上から、左手を横から切るつもり。
  - ・腰を低くして抜き付け、左足(大腿部・腿)を張り膝頭は床面近くに。

- 10 本 目  
虎 乱 刀
- ・この技だけ左足から進んで、抜き付け、振り被って真向まっこうから切り下ろす。
  - ・血振るい、納刀全て立ち技。

- 11 本 目  
抜 打 ち
- ・さし方向上方に抜き上げる。
  - ・真向から切り下ろすと同時に、高い位置から両膝を床に(トン)と落とす。

- 12 本目陰陽  
進退 替業
- ・6本目に同じであるが、二人目の敵に対しては腰車を切るのではなく、自分の右足脛すねを囲って刀の中に入るように振り被って切り下ろす。

以下資料 18 参照のこと

## 中 伝（長谷川英信流）

- 1 本目横雲 ・原則足を引いて行うが踏み込んで攻める稽古も重要。（以下同様）  
（前向き） ・受け流しに刀の下に身を入れて振り被る。（以下同様）  
・体勢は全体的に低い。（以下同様）  
・初伝、初発刀の要領。

### 2 本目

- 虎 一 足 ・敵の切ってくる箇所をしっかりと確認した脛<sup>すね</sup>囲いをする。  
（前向き） ・脛<sup>すね</sup>囲いは刀を見るのではなく敵を見る。  
・初伝、陰陽進退替え技の要領。

### 3 本目稲妻

- （前向き） ・上段から切り掛かって来る敵の右腕上部、左腕へと切りつける。  
・初伝月影（勢中刀）の要領。

- 4 本目浮雲 ・  
（左向き）

- 5 本目山嵐 ・  
（左向き）

- 6 本目岩波 ・  
（右向き）

- 7 本目鱗返 ・  
（右向き）

- 8 本目波返 ・  
（後向き）

- 9 本目瀧落 ・  
（後向き）

- 10 本目 ・  
（前） 抜打

以下資料 19 参照のこと